

Ⅱ. 平成21年度 中間決算の状況



愛媛県を代表する産業 ～造船・海運業～



～ 地元スポーツ振興による地域活性化への取組み ～

全日本テニス選手権(混合ダブルス)優勝
当行の植木竜太郎選手とクルム伊達公子選手とのペア

平成21年度中間決算サマリー(P/L)

- 金利低下の影響による資金運用収益の減少と役務取引等利益の減少などにより前年同期比減益
- 信用コストは前年同期比大幅に減少

平成21年度中間決算(単体)

(単位:百万円)

	平成20年度 中間期	平成21年度 中間期	前年同期比	
			前年同期比	増減率
コア業務粗利益(注1)	42,648	40,323	△ 2,325	△ 5.5%
資金利益	38,890	37,480	△ 1,410	
役務取引等利益	3,496	2,375	△ 1,121	
その他業務利益(除:国債等債券関係損益)	261	467	+206	
経費(△)	24,069	24,041	△ 28	△ 0.1%
人件費	12,713	13,020	+307	
物件費	9,826	9,570	△ 256	
税金	1,529	1,450	△ 79	
コア業務純益(注2)	18,578	16,282	△ 2,296	△ 12.4%
①一般貸倒引当金繰入額(△)	5,128	△ 313	△ 5,441	
業務純益	8,662	16,143	+7,481	+ 86.4%
うち国債等債券関係損益 (A)	△ 4,787	△ 451	+4,336	
臨時損益	600	△ 10,190	△ 10,790	
②不良債権処理額(△)	8,687	8,628	△ 59	
株式等関係損益 (B)	8,805	△ 1,046	△ 9,851	
その他の臨時損益	482	△ 514	△ 996	
経常利益	9,263	5,953	△ 3,310	△ 35.7%
特別損益	397	171	△ 226	
税引前中間純利益	9,660	6,125	△ 3,535	
中間純利益	6,144	4,064	△ 2,080	△ 33.9%
経常収益	66,716	49,739	△ 16,977	△ 25.4%

(注1)コア業務粗利益…国債等債券関係損益を除く「業務粗利益」

(注2)コア業務純益…コア業務粗利益 - 経費

主な増減要因等(前年同期比)

コア業務粗利益 … 前年同期比△2,325百万円

- 金利低下の影響等による、貸出および有価証券運用収益の減少
- 預り資産収益の減少による、役務取引等利益の減少

経費 … 前年同期比△28百万円

- ◇営業態勢強化のための人員増加
- ◇経費削減努力による物件費の減少

コア業務粗利益の減少に伴いコア業務純益は減少

信用コスト(①+②)8,315百万円 … 前年同期比△5,500百万円

①一般貸倒引当金繰入額(前年同期比△5,441百万円)

②不良債権処理額(前年同期比△59百万円)

- ◇主に引当率の低下による減少

有価証券関係損益(A)+(B)△1,498百万円 … 前年同期比△5,516百万円

(A) 国債等債券関係損益 (前年同期比+4,336百万円)

(B) 株式等関係損益 (前年同期比△9,851百万円)

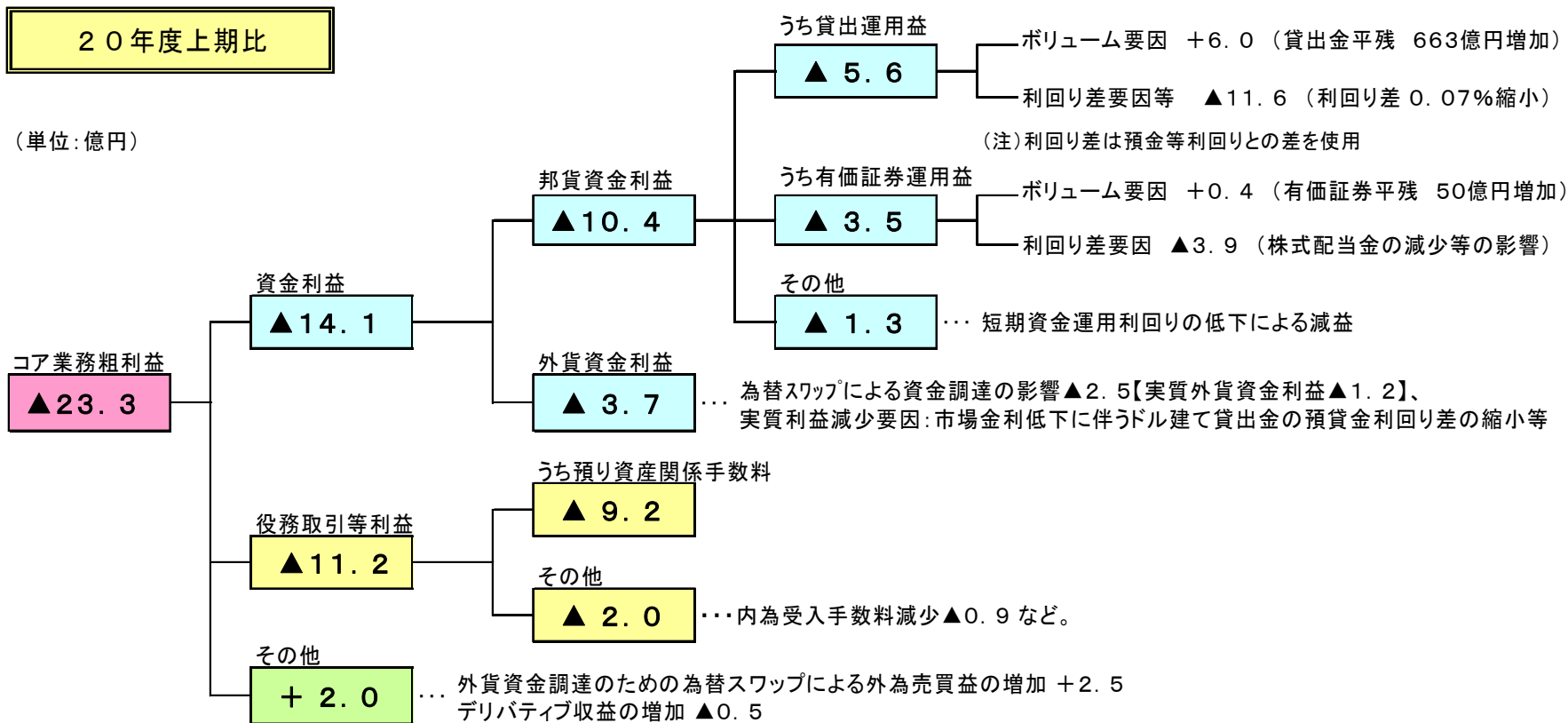
- ◇前年度に有価証券売却益を計上した影響により減少

経常利益5,953百万円…前年同期比△3,310百万円

中間純利益4,064百万円…前年同期比△2,080百万円

21年度上期コア業務粗利益増減要因分析

- 資金利益は、貸出金、有価証券とも、ボリュームは増加したものの、預金等との利回り差縮小により減益
- 役務利益・その他は、金融市場の混乱に伴う預り資産販売の伸び悩みにより減益



預金・貸出金の状況

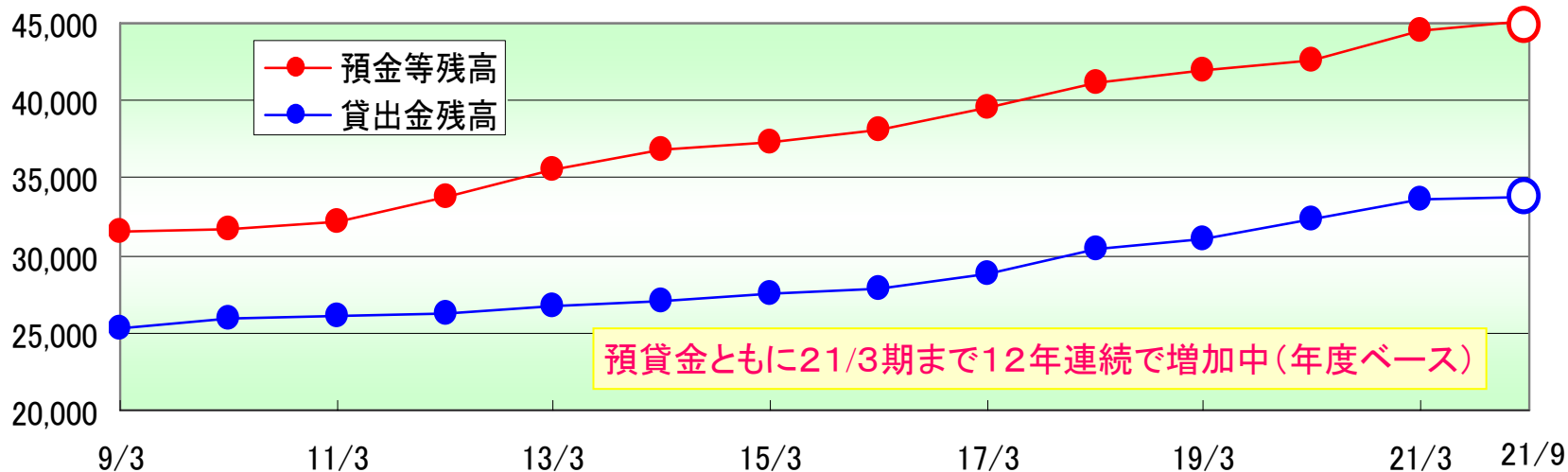
- 預貸金ともに年度ベースで12年連続増加中、22/3期は13年連続増加を見込む
- 預金等は、個人預金の順調な増加を主因として安定的に成長
- 貸出金も、厳しい経済環境下において増加基調を継続

預貸金残高推移(単体)

(単位:億円)

	18/3	19/3	20/3	20/9	21/3	21/9	前年同月末比	増加率
預金等残高	41,154	41,984	42,675	43,118	44,496	45,212	+ 2,094	+ 4.9%
うち個人預金	26,668	27,581	28,518	28,563	29,426	29,854	+ 1,291	+ 4.5%
貸出金残高	30,421	31,078	32,375	32,801	33,681	33,721	+ 920	+ 2.8%
うち個人融資	7,771	8,130	8,482	8,684	8,793	8,802	+ 118	+ 1.4%

<預貸金残高推移(単体)>



信用コスト・開示不良債権の状況

- 信用コストは、一般貸倒引当金の貸倒実績率低下により前年同期比55億円減少
- 不良債権比率は、2.44%と低水準を維持

＜要因別信用コスト推移＞

(億円、%)

	19/3		20/3		21/3		21/9	前年同期比
	18/9	19/3	19/9	20/3	20/9	21/3		
信用コスト合計	112	158	54	67	138	202	83	△ 55
倒産による引当増加	19	28	15	40	46	134	16	△ 30
ランクダウン等による引当増加	135	194	34	76	50	82	84	34
ランクアップ・回収による個別引当金取崩	△ 9	△ 25	△ 13	△ 56	△ 12	△ 27	△ 17	△ 5
償却・売却等	5	6	1	3	3	4	3	0
一般貸倒引当金繰入額	△ 38	△ 45	17	4	51	9	△ 3	△ 54
与信費用比率	0.74	0.52	0.34	0.21	0.84	0.61	0.49	△ 0.35p

＜金融再生法開示不良債権額・比率推移＞

(%)

